







神さまが 世界をつくられた

いちばんはじめ 神さまがおられた。  
人も動物もない。  
木も花も 大地も空もなかった。  
ただ 神さまだけ。



神さまが すべてをおつくりになった。  
空をつくり 大地をつくり  
みどりの森をつくられた。



猛かがやく 太陽を  
夜ひかる 月や星をつくられた。



陸に生きる 動物  
海をおよぐ 魚  
空をとぶ 鳥をつくられた。

神さまはいわれた。  
「この世界は すばらしい。  
だからに これをあげよう。」  
それで 人をおつくりになった。



神さまは 目で 世界ぜんぶを おつくりになった。  
そして 了目めにおやすみになった。



### ノアのはこぶね

世界じゅうには悪い行いがふえて あらそいばかり。  
 ノアだけは 正しい人だった。神さまは 彼等を  
 すっかり あたらしくしたい と怒られた。それで  
 ノアにはこぶねをつくるようにいわれた。  
 ノアは そのとおりにした。



神さまは どのしるいの動物も  
 おすとのすき はこぶねに  
 のせるように いわれた。  
 ノアは そのとおりにした。  
 ノアとその家族も のった。

それから 神さまは  
 雨を おふらせになった。  
 雨は よりつづいて  
 世界じゅうをおおう  
 大水になった。

はこぶねに のっていたものは  
 たすかったけれど  
 はかものは みんな  
 おぼれてしまった。



神さまは 太陽がでて 雨があがるようにされた。  
 みんなは はこぶねの外にでた。ノアは さげんだ。  
 「ごらん！ 神さまが 空にしろしき をみせてくださった。  
 世界を 二どと 大水ではろほさない というしろしき。」  
 それは うつくしい にじだった。





## バベルのとう



彼等が あたらしくなったとき  
みんな 同じことばをはなしていた。  
バベルの町の人たちは 天までとどく 高いとうを  
つくることにした。神さまは 怒られた。  
「ふむ、人は 自分たちで なんでもできると思っている。」



神さまは 思いあがっては  
いけないことを おしえるために  
いろいろな ちがったことばを  
おあたえになった。  
だから 人は  
いっしょに はたらくことも  
とうを つくりあげることも  
できなかった。  
それで 人は いま  
いろいろな ことばをはなす。

## アブラハム

むかし アブラハムという ひつじかいがいた。  
その人は 神さまと はなすことができた。  
ある日 神さまは アブラハムに  
「あたらしい土地に いきなさい。  
その道を おしえよう。」といわれた。  
アブラハムは テントをたたみ  
ひつじをあつめ  
おくさんの サラをつれて 出立した。



何日もかかって アブラハムは カナンへやってきました。  
神さまは いわれた、「この土地は いつまでも  
おまえと おまえの家族のもの。」  
アブラハムは この大さなしょくよくを 感謝した。  
このときから アブラハムの家族は  
カナンに住み この神さまを おがんだ。



## ヨセフときょうだいたち

カナン<sup>①</sup>の地には父の子どもをもった父<sup>②</sup>がいた。  
その父<sup>③</sup>がかわいがっていたのはヨセフ<sup>④</sup>だった。  
やさしくてかしこい子<sup>⑤</sup>だった。  
神さまはゆめのなかでヨセフにはなされた。



ヨセフはゆめのことを  
きょうだい<sup>⑥</sup>にはなした。  
「みんなが夏のたば<sup>⑦</sup>を  
もっていた。すると  
父さんたちのたば<sup>⑧</sup>が  
ほくのたば<sup>⑨</sup>に  
おじぎをしたんだ。」

「ゆめのなかで父様や母や兄が  
ほくにおじぎをしたよ。」とヨセフがいうと  
父さんたちはおたんで「ほくたちは  
ヨセフにおじぎなんかするもんか。」  
といった。



ヨセフはゆめのことを  
きょうだい<sup>⑥</sup>にはなした。  
「みんなが夏のたば<sup>⑦</sup>を  
もっていた。すると  
父さんたちのたば<sup>⑧</sup>が  
ほくのたば<sup>⑨</sup>に  
おじぎをしたんだ。」

ある日父さんたちは  
エジプト<sup>⑩</sup>にいく父<sup>⑪</sup>たちに  
ヨセフを売<sup>⑫</sup>った。  
そしてお父さんには  
「ヨセフがけものに  
たべられてしまった。」とほなした。  
お父さんはたいへんかなしんだ。



何年<sup>⑬</sup>もたってヨセフのきょうだいたちは  
エジプトへたべものを買い<sup>⑭</sup>にいった。  
カナンにはたべものがなくて家<sup>⑮</sup>が飢えていたから。  
みんなは神の父<sup>⑯</sup>のまえでおじぎをした。  
父さんたちはその父<sup>⑰</sup>がヨセフだとはわからなかった。  
ヨセフのゆめはこうにしてほんとうになった。  
エジプトにはじゅうぶんたべものがあつたので  
ヨセフは家<sup>⑱</sup>をよびよせた。



お父さんはとてもしあわせだった。  
かわいがっていたむすこが生きていたし  
家<sup>⑲</sup>がすくわれたから。



## モーセ

エジプトの あたらしい王さまは 悪い人だった。  
カナンからきた ユダヤ人を エジプトにとどめて はたらかせ  
ユダヤ人の 男のあかんぼうを ぜんぶ ころそうとした。  
でも 神さまには ご計画があった。

ある ユダヤ人のお母さんは  
あかんぼうを かごに入れて  
川に流した。かごは  
王さまの宮殿まで 流れていった。  
おひめさまが かごをみつけて  
さげんだ。「まあ あかちゃんよ！」  
おひめさまは あかんぼうに  
モーセとおつけた。モーセは  
王さまの宮殿で おじに たたくましく  
そだっていった。

神さまは ユダヤ人を エジプトから  
みちびきだすように モーセに  
おめいじになった。そして 神さまは  
災をたべてしまうイナゴや カエルなどで  
王さまを こもらせた。  
王さまが ユダヤ人を でていかせるまで  
つぎつぎに 悪いことが おこった。

エジプトと カナンのあいだには  
大きな 海があった。  
モーセと人びとには 船がなかった。  
それで 神さまは 海をふたつにわけ  
水のなかを まっすぐにすすめる  
道を おつくりになった。

神さまは山の頂上に モーセを およびになった。  
ふたつの 大きな石に 10のことばを書いて  
モーセにおあたえになった。そのことばは ユダヤ人が  
どのように 生きたらよいかを おしえるものだった。  
神さまは いわれた。「人びとに いいなさい。このことばに  
したがうように。そうすれば わたしは かれらをまもる。」

神さまは モーセが ユダヤ人を  
もとの地につれもどすのを たすけられた。  
その地は イスラエルとして  
しられるようになった。

## ダビデとゴリアト

ダビデはイスラエルに住む 17歳の少年で、ひつじの世話をしていた。神さまはユダヤ人をおさめるようにとダビデをおえらびにされた。



ダビデは、ハーブがじょうずだった。イスラエルの王さまは戦いでつかれたとき、ダビデにハーブをひいてくれるようにたのんだ。ダビデの音楽は王さまをたのしませてくれた。



ある日、ゴリアトというおそろしく大きな男がユダヤ人のなかに自分と戦う勇気のあるものはだれもいないと、じまんしはじめた。ほんとうに、そうだった。ユダヤ人の兵隊はみんな、大きなゴリアトをこわがっていた。さあ、ユダヤ人はどうしただろう？



そのとき、小さなダビデがいった。「はくが、ゴリアトのあいてになろう。神さまがはくをたすけてください。」ダビデは、石をなげと小石をもって、でていった。



ゴリアトは、ダビデをあざわらった。ダビデは、石をなげて、石をとばした。石は、ゴリアトのあたまにあたった。ダビデは、刀でゴリアトをころした。ゴリアトのなまは、みんなにげてしまった。ダビデは、こうして、ユダヤ人をすくった。